

平成27年度 評価計画及び自己評価

(計画・**中間**・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	「自分を創る」 ひびきあうことば “響Do” ひびきあういのち ひびきあうまなび	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション> (学校の使命)	小中一貫教育を通して、「自他の幸せを目指し、自立し貢献できる人間」の根っこを育てる。
			<ビジョン> (将来の学校像)	・行くのが楽しみな学校の実現。 ・会うとうれしくなる先生の育成。 ・会うとうれしくなる仲間の構築。

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	【現状 (○成果●課題)】 ○ 小中一貫教育を推進する組織体制が確立しており、小学校と中学校の一体的な学園運営が軌道に乗っている。 ○ 学校教育目標『自分を創る』により、教職員・児童生徒・保護者・地域が、双方向的な教育を深化させている。 ● 各学力調査において、知識・技能を活用する問題に課題がある。 ● 県市及び県の動向 (小中一貫教育研究第3期等、「学びの変革」全県展開 [H30]) を踏まえた体制やシステムづくりを推進し、教育活動の段階的なステップアップを図る必要がある。 ● 生徒実態を踏まえ、特別支援教育の視点による授業づくりの推進が求められる。 ● 「ことば」「いのち」「まなび」をキーワードとした教育活動は、本校教育の基盤として継続する。 上記の現状より、次の5点を今年度の重点とする。 ①「自分を創る」ストーリーを自分の言葉で語る生徒の育成 ②思考力・表現力の向上 ③小中一貫教育校として新たな価値を創造する学校組織の構築 ④誰もが安全で安心して学べる教育環境の確保 ⑤警固屋地域における学校・家庭・地域による双方向的な教育の推進
------------------------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・③ 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	生徒も教職員も 生きた言葉で語り 合い、触れ合う環 境を創る。 貫	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。(地域と共に「あいさつのできる警固屋っ子」の育成)	自治会長会, 民児協, 補連協等への適時適切な情報発信と連携の充実	地域での児童・生徒のあいさつについて、地域住民の肯定的な評価の割合。	85%	81%	95%	B			
		○生徒の「ことばの力」を高める。(読書習慣の形成)	・朝読書の時間の確保 ・図書委員会の啓発活動の充実	1か月に1冊本を読み切る生徒の割合。	75%	50%	67%	C			
		○自分の思いを表現する力を高める。	自立ノートの振り返り欄の記入の徹底	自立ノートに自分の気持ちを綴ることのできる生徒の割合。	85%	71%	84%	B			
**	かけがえのないいのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人がかけがえのないいのちであることを自覚させ、いじめを許さない学校風土をつくる。	・道徳教育の重点目標を「自尊感情の育成」とし、教育相談やワークシートの効果的な活用 ・「今日のMVP」の取組	自尊感情についての生徒の肯定的な評価の割合。	70%	75%	107%	A			
			・教職員の日常的な生徒の実態の把握による早期発見・早期解決体制の整備 ・生徒会によるいじめ撲滅に係る主体的な活動の実施	いじめアンケートにおいて、「いじめはない」という回答。	100%	100%	100%	A			
***	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。	○思考力、表現力を高める。	思考ツールを活用した授業の創造	「基礎・基本」定着状況調査生徒質問紙の思考力に係る項目の肯定的評価の割合。	85%	67%	79%	C			
		○課題解決能力を高める。	課題を見付け、協働的に問題解決を図り、実践する単元の開発・実践	課題解決能力についての項目の生徒の肯定的評価の割合。	80%	74%	93%	B			

【k:評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

平成27年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

中間・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い、触れ合う環境を創る。	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。(地域と共に「あいさつのできる警固屋っ子」の育成)	生徒のアンケート調査「学校の外でも地域の方に進んであいさつしています」の質問に対しては、90%の生徒が肯定的評価をしている。一方で、地域の方の81%があいさつと返事について肯定的評価をされているが、昨年度の達成値86%と比較すると下がっている。8割以上の生徒・地域の方は、あいさつを進んで行っているという結果が出ている。	現在行っている小中合同の「あいさつ運動」(バス停等)を継続しつつ、日常のあいさつについても、委員会を通して、「あいさつ強化週間」や「あいさつコンクール」等を実施し、さらに充実させていく。
		○生徒の「ことばの力」を高める。(読書習慣の形成)	本を手にとって読み始めると集中して読んでいるように思うが、それまでに費やす時間が長く、その結果「朝読書の時間」では未消化のまま読書が終わってしまう生徒も多い。また、同じ本を何度も読んでいる生徒も多い。記録に対する意識も低いので、自分が1ヶ月にどのくらいの本を読んでいるのかの認識も低いと思われる。ゆえに、数値としてははかばかしいものが残っていないと考える。	朝読書の時間の十分な確保と記録に対する意識を高める。委員の呼びかけ及び教職員の呼びかけを行う。また、定期的な点検を行い確実なものにしていく。
		○自分の思いを表現する力を高める。	生徒の肯定的評価は評価Bではあるが、自立ノートの振り返りの文章を見ると甘めの評価と考える。内容が一日の出来事などに終始しているものが多く、自分の生活を振り返り、高めようとする意識が十分育っていないと考える。	教員側からテーマを与えて、それについて自分の思いを書かせる取組を仕組んでいく。各教科や道徳などあらゆる場面で書かせる取組を継続していき、自立ノートの振り返りの記述においても、思いを表現する力を高めていく。
**	かけがいのないのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人かけがえのないのちであることを自覚させ、いじめを許さない学級風土をつくる。	生徒の自尊感情は、昨年度の72%から75%と微増している。今回のアンケート調査では、「いじめはない」と回答した生徒は、100%の目標値を達成した。これは、今までの「いじめ撲滅キャンペーン」や全校生徒に対する教育相談等の取組の成果だと思われる。	これまでの教育相談、自立ノートの活用などの取組を継続しつつ、「今日のMVP」の取組も行っていく。いじめに関しては、気になる生徒の悩みの解消に努め、いじめの早期発見・早期対応に取り組んでいく。可能であれば、SCの先生も含めているいるな先生が、放課後の時間を利用して1部屋に待機して、生徒と自由に相談できる環境を整える。
***	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。	○思考力、表現力を高める。	「思考ツール」を活用した授業の本格的実施は2学期に入ってからである。今回の調査はいずれも1学期に行ったものであるため、取組前のデータと考えるべきである。しかしながら、「情報の比較・分類」にかかわる数値が低いということは、これまでの生活の中で「比較・分類」という活動が希少であったと考える。	「情報の比較・分類」を意識的に授業の中に組み込み、思考の幅を広げる活動を習慣づける。また、「伝える」ということを常に意識させた言語活動を行っていく。
		○課題解決能力を高める。	さまざまな場面でグループで相談したり、協力したりして取り組むことで、「協働」に対する生徒の意識は高まっている。しかしながら、「自ら課題を見つけ」「解決方法を考える」という点については「思考する力」が問われてくるので不十分な要素が多いと考える。	研究授業等での実践を深め、「思考力」の育成に励みながら、あらゆる場での「協働」を図り、生徒にさまざまな解決方法があることを体感させる。

平成27年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	「課題解決能力」は、これからの時代を生きる子ども達には大変重要な力である。中学生が宇佐神社の清掃のボランティアを実施したことで、学校と地域との協働が更に深まりつつある。地域の課題に視点をあてて、その解決策を考えていくような学習を実施していただきたい。
目標達成のための方策の適切さ	A	「自立ノート」「思考ツール」の活用など、具体的な方策が講じられている。保護者にとっても、子ども達の力を伸ばすために「学校がちゃんとやってくれている」という安心感につながるのではないだろうか。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	詳しく調査されており、分析も適切である。昨今、いじめ問題がマスコミ等で取り上げられることが多いが、いじめがないと子ども達が答えているのがうれしいことである。ただ、気になる様子もあるようなので、これからも丁寧に子ども達を見ていってほしい。
今後の改善策(案)の適切さ	A	分析に基づいて、適切な改善策が講じられている。二学期から本格実施の「思考ツール」がどのような成果をもたらすのか、また目標値に届いていない項目もあるので、最終評価に期待している。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・学校が独自に「自立ノート」を作成し、取り組んでいるのは大変効果的である。社会人になっても、作業日報を書く必要がある。一日を振り返り、評価・反省し次の日のステップにすることが成長につながる。続けていってほしい。 ・文化祭を参観し、生徒が一生懸命に頑張っていた。今年は特に男子の歌声が大きく感じ、警固屋賛歌では大きな感動を得た。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○課題解決能力を高めるという点について、評価委員である警固屋市民センター長さんから、学校が地域と協働し、子ども達が地域の課題を見つけ、その解決方法を考えていく学習活動の提案があった。次年度のカリキュラム開発に向けて、早速学校が警固屋地区や呉市の課題を把握すべく、警固屋市民センターや警固屋まちづくり協議会等と連携を進める。</p>
--------------------	--